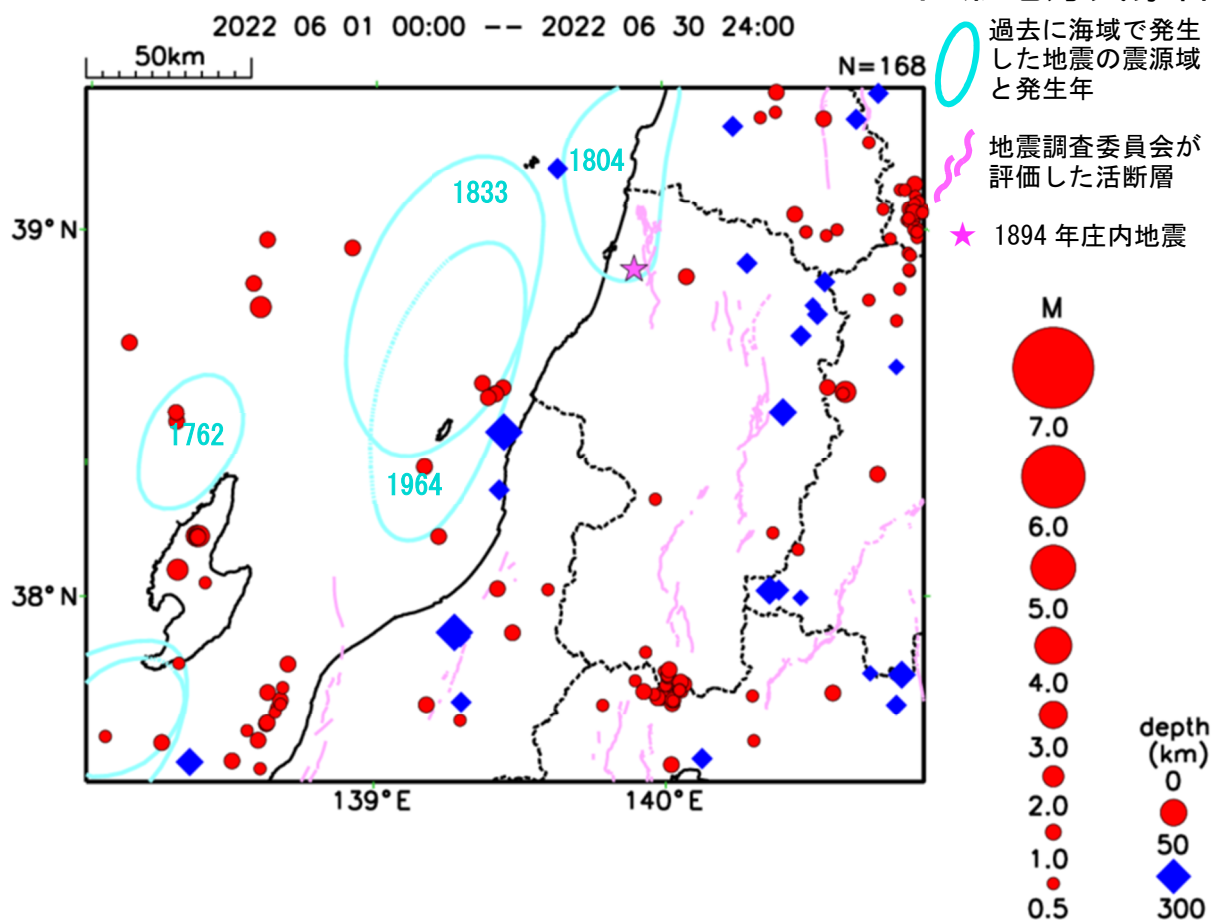


山形県月間地震概況（2022 年 6 月）

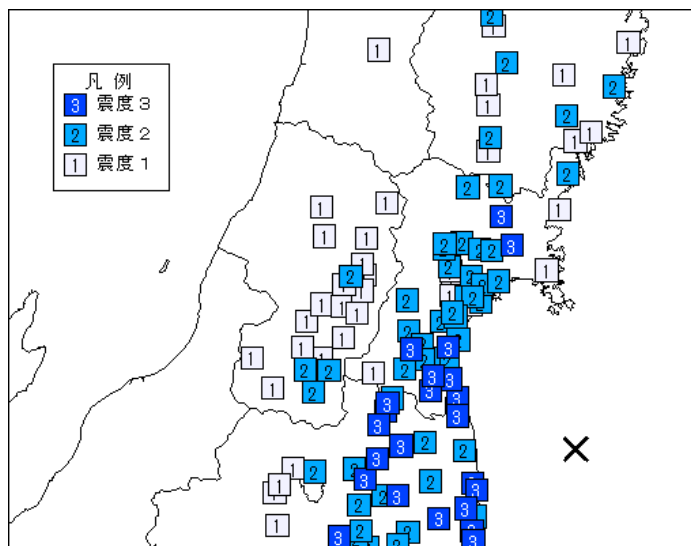
山形地方気象台



【概況】

この期間、山形県とその周辺（上図の範囲内）で観測した地震は 168 回であった。また期間中に県内で震度1以上を観測した地震は5回（前期間5回）であった。

12 日 21 時 45 分に福島県沖の深さ 54km で M5.1 の地震が発生し、福島県広野町、天栄村、宮城県石巻市などで震度3を観測したほか、東北地方、関東地方及び新潟県で震度2～1を観測した。県内では村山・置賜・最上で震度2～1を観測した。この地震は太平洋プレート内部で発生した。

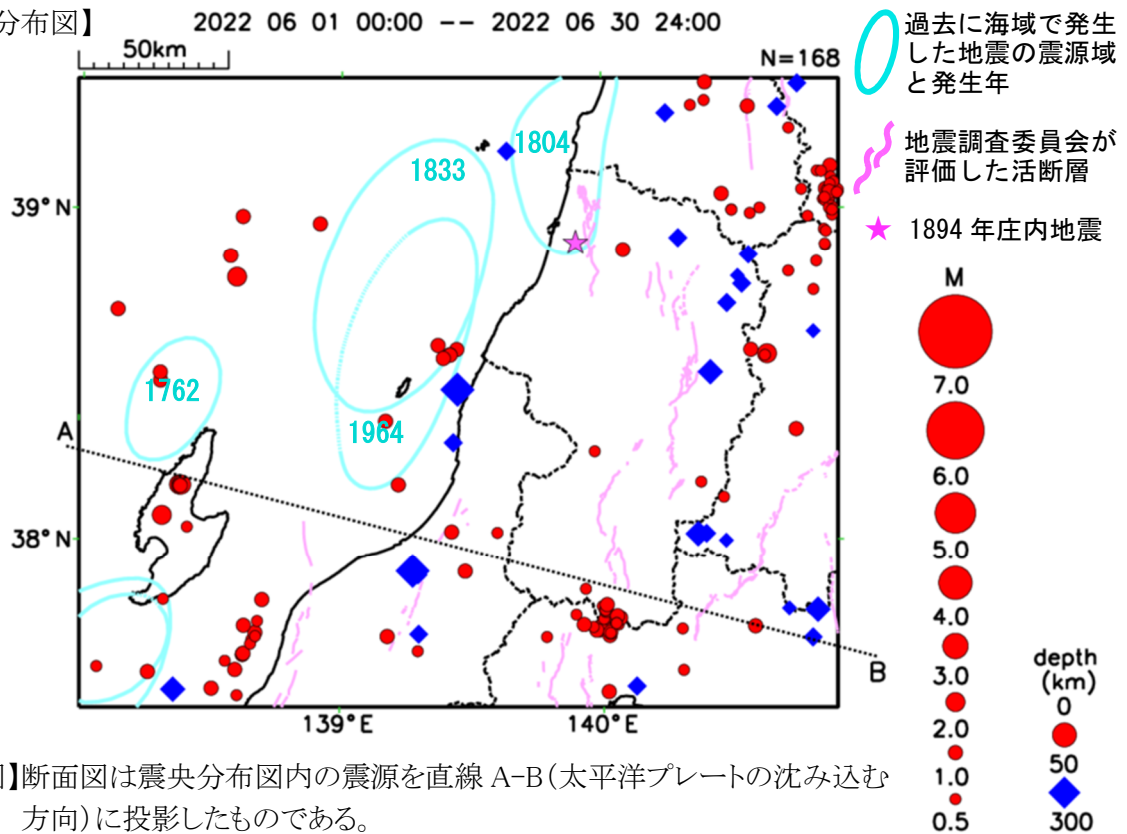


12 日 21 時 45 分に福島県沖で発生した地震(M5.1)の震央(×)と市町村別震度

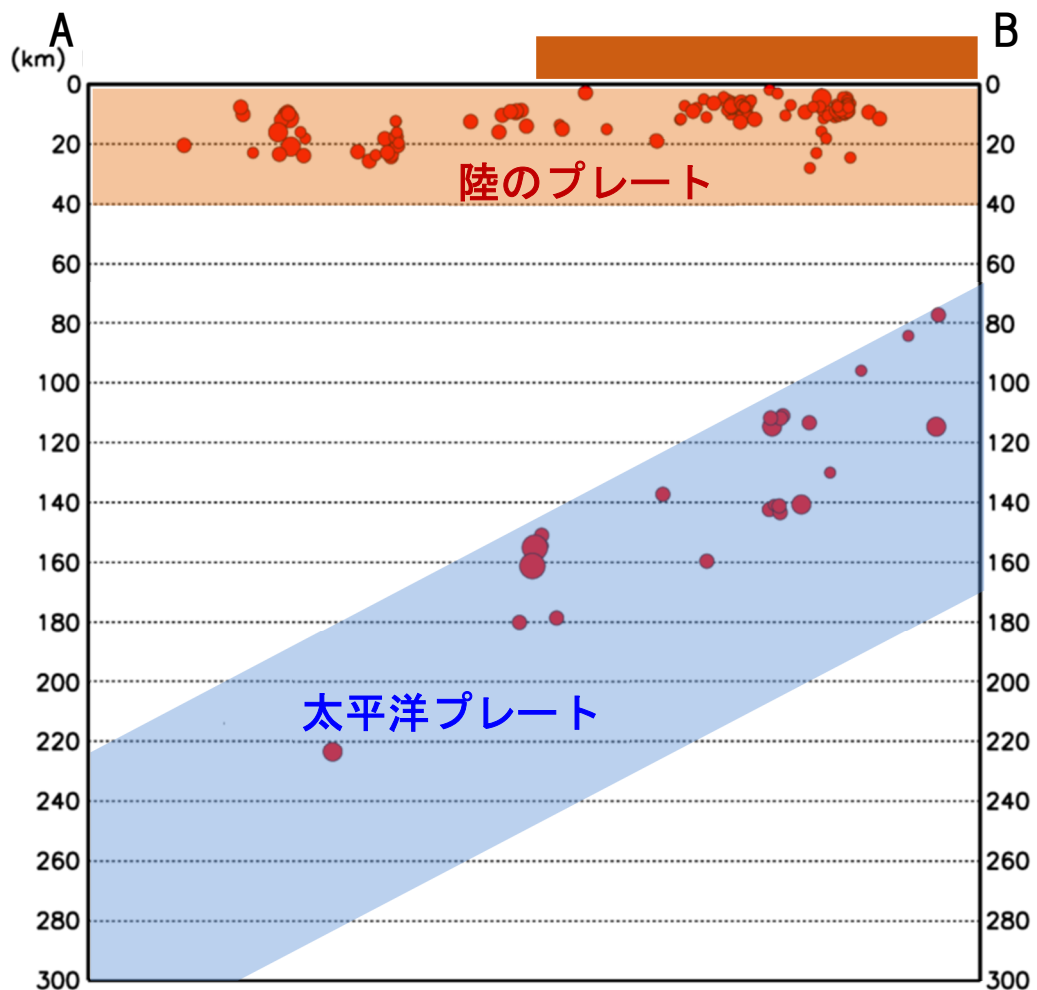
※本資料では、地震の規模を示すマグニチュードを「M」として表記している。

※山形県の各地の震度の詳細は、別紙「山形県で震度1以上を観測した地震の表」を参照。なお震源要素等は、再調査により変更することがある。

【震央分布図】



【断面図】断面図は震央分布図内の震源を直線 A-B(太平洋プレートの沈み込む方向)に投影したものである。



※太平洋プレート及び陸のプレートの位置は、地震発生状況を考慮して描いた大まかなものである。

※ は陸地の大まかな位置を示している。

※陸地から離れた海域ほど、震源の深さ精度は良くない。なお、沖合いの地殻内で発生する地震の震源は、実際はより浅いものが多いと考えられる。

山形県で震度 1 以上を観測した地震の表

※今後の精査により、震源や震度のデータが追加されることがある。

期間 2022年 6 月 1 日～2022年 6 月30日

発 震 時	震 央 地 名	北 緯	東 経	深 さ	規 模
各地の震度					
2022年06月12日21時45分	福島県沖	37° 38.2' N	141° 35.3' E	54km	M5.1
山形県	震度 2 : 河北町谷地 米沢市林泉寺*	高畠町高畠*	山形川西町上小松*		
	震度 1 : 最上町向町* 大蔵村肘折*	戸沢村古口*	山形市薬師町*	寒河江市西根*	
	上山市河崎* 村山市中央*	天童市老野森*	東根市中央*	山辺町緑ヶ丘*	
	中山町長崎* 河北町役場*	山形朝日町宮宿*	尾花沢市若葉町*	米沢市駅前	
	米沢市アルカディア 米沢市金池*	長井市本町*	南陽市三間通*		
	山形小国町岩井沢 山形小国町小国小坂町*	白鷹町黒鴨	白鷹町荒砥*		
	飯豊町上原* 飯豊町椿*				
2022年06月13日01時57分	福島県沖	37° 12.6' N	141° 20.4' E	41km	M4.3
山形県	震度 1 : 米沢市アルカディア				
2022年06月15日01時33分	宮城県沖	38° 27.5' N	141° 58.3' E	60km	M4.3
山形県	震度 1 : 尾花沢市若葉町*				
2022年06月17日23時35分	福島県沖	37° 35.0' N	141° 34.2' E	58km	M4.7
山形県	震度 1 : 上山市河崎* 米沢市駅前	米沢市アルカディア	米沢市林泉寺*	南陽市三間通*	
	高畠町高畠* 白鷹町荒砥*				
2022年06月28日05時03分	宮城県沖	38° 28.0' N	142° 07.6' E	42km	M4.9
山形県	震度 1 : 尾花沢市若葉町*				

(注) 地震の震源要素等は、再調査により変更することがある。

各地の震度は山形県のみを示し、*は地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の観測点である。

本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成している。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成している。

地震から身を守るために

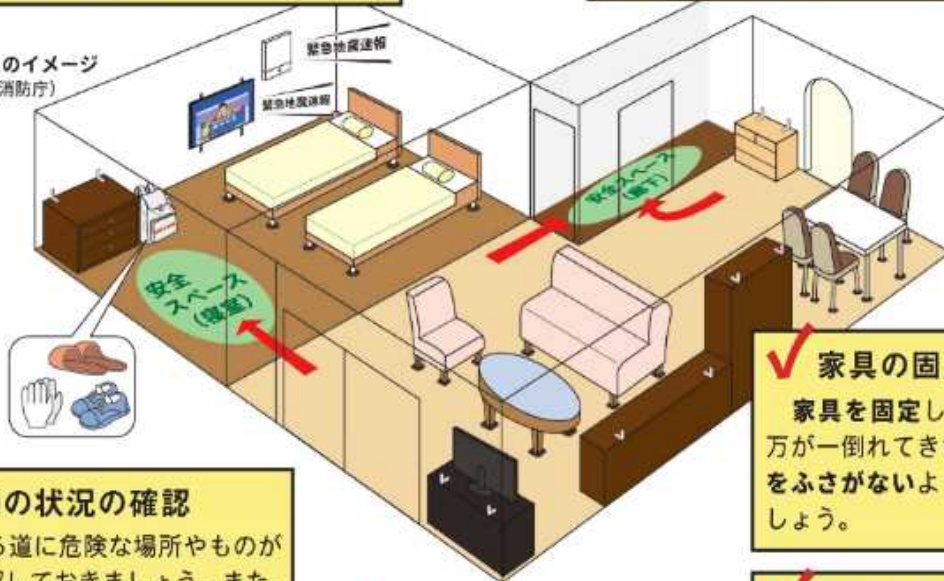
地震は、いつどこで起こるか分かりません。普段からできる地震への備えを、改めて確認しておきましょう。また、いつどこで地震が起きても、その場の状況に応じた行動がとれるように、普段からイメージトレーニングや訓練をしておきましょう。

日頃からの地震への備え

✓ 備蓄・非常持ち出し品の準備
非常時の水・食料の備蓄や、非常用持ち出し品を準備しておきましょう。

✓ 安全スペースの確保
室内になるべくものを置かない「安全スペース」（ものが落ちてこない・倒れてこない・移動しない空間）を作っておきましょう。

室内の備えのイメージ
(資料：東京消防庁)



✓ 周囲の状況の確認
普通通り道に危険な場所やものがないか確認しておきましょう。また、地盤の弱い場所や地震によって地盤の緩んだ場所では、降雨などにより土砂災害が発生することがあります。前もって周囲の状況を確認しておきましょう。

✓ 連絡手段の確認
地震が発生したときの連絡手段や集合場所について、あらかじめ家庭で話し合っておきましょう。

✓ 家具の固定
家具を固定しましょう。また、万が一倒れてきた場合でも、通路をふさがないように配置を考えましょう。

✓ 訓練に参加しよう
本当に地震が起こったときに、あわてずに身の安全を図ることができますか？積極的に訓練に参加しましょう。

地震が起きたときの身を守る行動例

地震の揺れを感じたら・・・

周囲の状況に応じて
あわてず、まず身の安全を!!

緊急地震速報を見聞きしたら・・・

家庭では

- ・安全スペースに避難する
- ・頭部を保護し、じょうぶな机の下など安全な場所に避難する
- ・あわてて外へ飛びださない
- ・むりに火を消そうとしない



屋外(街)では

- ・ブロック塀の倒壊に注意
- ・看板や割れたガラスの落下に注意



人が大勢いる施設では

- ・係員の指示にしたがう
- ・あわてて出口に走りださない



鉄道・バスでは

- ・つり革、手すりにしっかりつかまる

